

ブラジルで注目される

持続可能な社会をつくる自然農法

太田 裕司

はじめに

ブラジルでは、1979年より本格的な自然農法の普及がはじまりました。自然農法の研究開発、普及、生産、流通販売、家庭菜園、食育、環境問題などを岡田茂吉財団・KORINエンタープライズ・世界救世教の三団体が協力して取り組み現在に至りません。ブラジルでは、自然農法が持続可能な社会をつくる活動として注目されています。以下、各団体の紹介に併せてブラジルにおける自然農法の広がりをご紹介します。

岡田茂吉財団

財団は、1990年、サンパウロ市から180km離れた

イペウナ市に自然農法普及センターを設立し、岡田茂吉研究センター・自然農法事務局・自然食課を配置して、農家や企業全般に自然農法の普及活動を進め、今日の活動に至っています。

岡田茂吉研究センター

1996年、自然農法普及センターから岡田茂吉研究センターに名称を変更して活動を始めました。そして以下4つの研究を中心に活動しています。

①土壌と作物の管理
物理的、化学的に安定し、生物的に活発な土壌にするための技術研究

②育種

自然農法栽培に適した野菜

や穀類の品種育成の研究
③畜産飼育環境
KORINと研究センターが共同で動物愛護を考慮した飼料や飼育環境、飼育技術などの研究

④農業、畜産への微生物利用
栽培環境や飼育環境を安定させる微生物技術の研究

研究センターは、分析ラボ、実験室、栽培ハウス(60a)、圃場(8ha)を所有し、また、農家での試験栽培を通して研究を進めています。

研究の特徴は、各分野の研究者が協力しながら共同で研究を進めているということです。その中で種を採り、連作していくことで土壌と作物の質が向上するという、岡



岡田茂吉研究センターイペウナ農場
トウモロコシ畑、ハウス、研究所施設、KORIN精肉場、飼料工場



写真1
トウモロコシ試験圃場（上）
トウモロコシ種子の
発芽・発根（左）



写真2
グアラピランガ聖地での
自然農法研修の様子



写真3
自然農法実施農家圃場

田茂吉師が示していることが実証されてきています。具体的には、試験において土壌の物理性が改善され、柔らかく通気性に富み、有用微生物が活発に活動していることが確認されています。またトウモロコシでは、連作が可能で乾燥に強く、実に含まれるタンパク質やアミノ酸な

ど、人や家畜にとって重要な栄養成分が一般のものに比べ多く含まれていることがわかりました。現在、KORINが指導する2軒の農家が飼料用として生産しています（写真1）。

自然農法事務局

事務局は、農家への個別技術指導や講習会を通して、社会へ自然農法の普及活動を行っています。サンパウロ郊外にある世界救世教のグアラピランガ聖地（サンパウロ人気観光地第9位にランクイン）には、自然農法を体験できるように圃場を整備しています。内外から年間8000人以上の方が訪れ、農業体験研修を通して自然と土に向き合い、大自然の偉大さを感じていただいています（写真2）。

農家への普及は、ブラジル国内の大小さまざまな農家に土壌管理、病害虫対策、栽培管理などの技術指導を行っています。ブラジルは、農薬の使用量が6年連続世界第1位で、過剰な農薬使用が環境に大きな影響を与えています。また、小さな家族農家は、肥料や農薬などの資材の高騰により経営が苦しく、後継者問題も出ています。このような中で、自然農法は資材コストが安く持続性のある環境保全型農業のモデルであると注目されています。自然農法の実践者となられた農家が、地域モデルになる例も出てきます（写真3）。



写真4 州立小学校での子供向け料理教室（左）と有機食フェスティバルでの講演会（右）

自然食課

自然食を通して、自然農法が現代の食の問題の解決策になるということを、消費者に理解してもらい、消費に組み込んでいきます。

楽しく食生活を改善し、健康的な生活を勧めるために『食を通じ、幸せになるキャンペーン』をスローガンに活動しています。岡田茂吉思想を基に、ボランティアによる専門家の研究をより深め、その蓄積された知識をレシピ本や体験談として出版したり、3か月の食育講習会やワークショップ、料理教室などを開催しています。

この10年間で約3万人の参加がありました。その中で、学校給食関係者や機能食栄養士、レストランシェフなどから、ブラジルの食育に大きく貢献していると評価されています。（写真4）。

KORINエンタープライズ

健康な土による健康な農畜産物こそが、人類が生きていくための大切な基本であり、それらをブラジルの消費者が簡単に入手できるようにすることがKORINの目標で、農業・畜産・環境などの業種に分け事業として普及活動をし

ています。1994年に農畜産KORINを設立して食料品分野で展開をはじめ、2006年に環境KORINを設立して有機廃棄物処理や環境改善コンサルタント業務を展開しています。

農畜産KORIN

農畜産における自然農法の活動をはじめからこの20年間で、KORINはブラジルの食品業界の中で安心安全な食品として認められ、22種類200品目以上の商品を全国に販売しています。全国紙の新聞にも『主婦達のお気に入り』として取り上げられました。

自然農法の思想に基づいた商品を開発生産するKORINは、環境保全型持続性企業としてブラジルアメリカ商工会議所より「エコプレミアム」を受賞しました。また、農務省の出版物にも事例が紹介されています。

KORINブランドには、鶏肉、鶏卵、トウモロコシ、大豆、お米、フェジヨン豆、キャッサバ、蜂蜜、キノコなどの商品があります。そして牛肉でもサステナブルとオーガニックの販売がはじまりました。（写真5）。



写真5 店頭で並ぶKORINチキン（上）KORINが委託しているブロイラー生産者（右）

環境KORIN
 環境KORIN (KMA) は、主に有機廃棄物処理の資材販売、技術コンサルタント業務を行っています。堆肥発酵促進剤「EMBIO TIC LINE」を製造販売しています。この資材は食品残渣、庭木残渣、農業廃棄物、家畜糞などの有機廃棄物を良質な堆肥に短期間で発酵分解することができます。



写真7 食品残渣リサイクルの様子

また、微生物環境改善剤 EMBIO TIC LINE は、食品工場や家庭から出る汚水処理や廃棄物の悪臭緩和に役立っています。さらに、有機



微生物使用前



微生物使用后

写真6 精肉加工場の排水処理

まとめ

ブラジル世界救世教
 自然農法の普及の一環として、家庭菜園実施の普及を行っています。2011年より活動の一つとして進められるようになりました。現在、4万3000人を超える信者さんが家庭菜園を実践しています (写真8・9)。

廃棄物の生物性高速減容システムでは、食品廃棄物や有機汚泥、都市ごみなどの問題解決に貢献しています。KMAは、特に有機廃棄物処理の分野で注目されています (写真6・7)。

ブラジルにおける自然農法の普及は、多岐にわたって進められています。その活動は、ブラジル社会や農業のあり方にも大きな影響を与えています。ブラジルの環境保全型農業、有機農業発展の歴史の中で、自然農法は常に方向性を示す重要な役割を担ってきました。

このように、自然農法が社会にプラスに影響していくことで、一つの農業技術としてではなく、持続可能な社会をつくるという岡田茂吉師のメッセージが世界中でさらに求められる時代になってきたと実感しています。



写真8 家庭菜園講習会



写真9 鉢植えのワークショップ (上)
 環境教育プログラム (下)



(岡田茂吉財団 自然農法担当)